財務担当からのメッセージ



積極的な成長投資により、 中長期的な企業価値及び株主価値の 向上を目指します

上席執行役員 グループ経理財務統轄部長 伊藤 洋

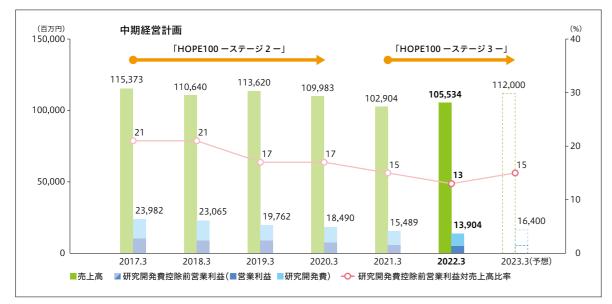
「資本政策と株主還元|

- 健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- 株主還元は、DOE(株主資本配当率)を勘案して、安定した配当を目指します

当社グループの財務担当として実行すべき役割は、財 務体質の健全性を維持しつつ将来への投資を積極的に 実行し、企業価値及び株主価値の持続的な向上を実現 することであると認識しています。

中期経営計画「HOPE100-ステージ3-lにおける財 務戦略の基本的な考え方は、①健全な財務基盤を維持し つつ成長投資と株主還元を通じて資本効率の向上を図る、 ②株主還元はDOEを勘案して安定した配当を目指す、と いうものです。毎年の薬価改定は当社グループの利益 水準に大変厳しい影響を与えています。このような環境 下で長期的な企業価値の向上を図るためには、利益の 源泉となる新薬の継続的な開発・上市が何よりも重要で す。そのため自社の研究開発及び外部からの導入品の獲 得に従来以上に積極的に投資し、開発パイプラインの拡 充を図ります。あわせて収益性の高い新薬群の売上拡大 を図るとともに、製造設備への大規模な投資を行い、必要 な生産能力を高めると同時にコスト効率を改善し、売上、 利益の向上を図っていきます。

売上高及び研究開発費控除前営業利益



【売上高及び研究開発費控除前営業利益】

毎年の薬価改定に加えて新型コロナウイルス感染症拡大等により、売上高及び営業利益に大きな影響を受けていますが、 2023年3月期は新薬群のラインアップが拡充したこと、主力製品において限定出荷解除が見込まれるため、増収・増益を予 想しています。また研究開発費控除前営業利益は16,400百万円、対売上高で約15%を予想しています。

当中期経営計画では、成果目標に持続成長の実現を 掲げており、「売上高」年平均5%以上の成長率を達成する こと、対売上高で20%以上の「研究開発費控除前の営業 利益(営業利益+研究開発費)]を確保することが具体的 な目標です。しかし一昨年の「ステージ3」のスタートと 同時に新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、患者 の医療機関への受診抑制等による医療用医薬品市場の 縮小等により、目標とする成長性、収益性を達成できる 推移とはなっていません。この2023年3月期は、回復傾 向にある市場のもと、新薬群の成長によって売上を伸長 させ、必ずや成長トレンドへの転換を果たしたいと考え ています。

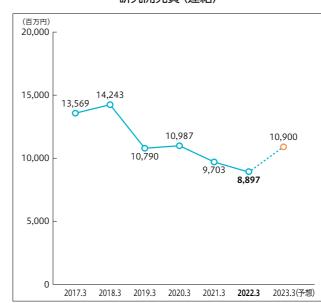
2023年3月期は開発パイプラインの進展に伴い、研究 開発費として前期比20億円増の109億円を予想していま すが、年度内に新たな導入品を獲得した場合はさらに上 振れる可能性があります。また医薬品の供給能力の増大 を図るため、富山県高岡市に総投資額約100億円の新 工場(高岡工場)の建設を決定し、2022年9月に着工す る予定です。設備投資額は50億円を予定しており、その 内、工場設備に係る費用は39億円を見込んでいます。

株主還元につきましては、毎年の薬価改定という事業 環境の大きな変化のもとで、財務の健全性と成長投資と のバランスを勘案して、前期(2022年3月期)に配当額の ベースとなるDOEの水準を引き下げました。今期も同じ 水準で配当を実行することを予定しています。また内部 留保につきましては成長の柱の構築に向けた投資に配分 する考えであり、製薬企業の生命線である創薬・開発投 資をはじめ、製品導入、新規事業の獲得、設備投資など の原資として、成長力の強化と将来の事業展開に向け て積極的に活用してまいります。

政策保有株式については、事業上の長期的な関係の 維持・強化、当社グループの持続成長や企業価値向上に 資するものと判断して保有しておりますが、保有意義に 乏しいと評価した場合には、随時、投資先企業と対話を 行った上で縮減を図っていきます。

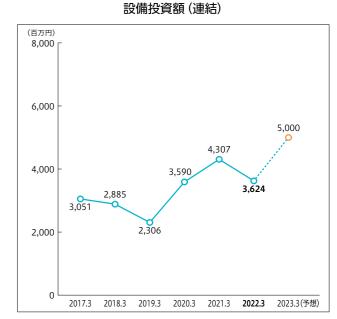
製薬企業は多額の投資を必要とする新薬開発のリス クが高く、特許切れ等による業績の変動も大きいため、 健全な財務基盤が企業の存続に不可欠です。2022年 3月末現在の当社グループの自己資本比率は72.4%と 健全な水準にあります。この財務基盤の健全性を維持し つつ、成長投資を積極的に行い、長期的な企業価値及び 株主価値の向上を目指してまいります。また成長投資を 実施するにあたっては、必要に応じて外部から資金を調達 し、長期的な成長の機会を適確に捉えていくようにいた します。引き続きご支援いただけますようお願い申し上 げます。

研究開発費(連結)



【研究開発費】

革新的新薬の創製を実現する創薬力を強化するとともに、中期的 な成長を支える開発パイプラインの拡充を図るため、導入品の獲 得に向けた積極的な投資を行っていきます。2023年3月期は開発 パイプラインの進展により研究開発費の増加を見込みます。



【設備投資】

品質向上・安定供給に資する効率的な生産拠点の建設や創薬・研 究開発設備の充実等、中長期的な事業基盤の構築に向けた設備投 資を行っていきます。2022年9月には新たな生産拠点である高岡 工場(総投資額約100億円)の着工を予定しています。

20 | 2022 ANNUAL REPORT 2022 ANNUAL REPORT | 21